

第1章 さくら市の現況と課題

1 さくら市の特徴

(1) 上位計画・関連計画の把握

- ・ さくら市都市計画マスタープランの内容に関わる上位計画及び関連計画の概要を把握します。

- ① 栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生15（いちご）戦略（第2期）：令和2年3月
 - ・ 喫緊の課題である人口減少問題の克服と将来にわたる地域の活力の維持を目指していく県の取組を明らかにする計画であり、「とちぎに魅力あるしごとをつくる」「とちぎへの新しいひとの流れをつくる」「とちぎで結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる」「とちぎに安心して住み続けたい地域をつくる」ことを基本目標に、「未来技術をとちぎの新たな力にする」を横断的目標に掲げ、15の戦略で“とちぎの未来創生”にチャレンジしていくものとしています。
- ② 栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」（令和3年度～令和7年度）：令和3年2月
 - ・ とちぎの将来像を描く基本的な指針と5年間に取り組む施策が示され、「人が育ち、地域が活きる未来に誇れる元気な“とちぎ”の実現に向け、デジタル化・新たな日常・SDGs等の新たな視点を踏まえつつ、産業・成長戦略や安全・安心戦略などを進めるものとしています。
- ③ さくら都市計画区域マスタープラン：令和3年3月
 - ・ 持続可能な集約型の都市への転換を図るため、「誰もが暮らしやすくコンパクトな都市づくり」「誰もが安全でスムーズに移動できる都市づくり」「持続可能で効率的な都市づくり」「新技術を活用した環境にもやさしいスマートな都市づくり」「とちぎの魅力や強みを活かした都市づくり」を基本理念として、多核ネットワーク型の都市構造「とちぎのスマート+コンパクトシティ」を目指すこととしています。
- ④ 第2次さくら市総合計画：平成28年3月
 - ・ 持続性のある自立した行財政基盤を確立し、安心して暮らせるまちづくりーさくら市での暮らしを楽しめるまちづくりーを基本理念に、安心して暮らせ、地域・ひと・ものを結ぶ、魅力いっぱいのもちー健康・里山・桜の小都市ーを目指すものとしています。
 - ・ さくら市の長期展望として2060年の人口の将来展望を38,013人と設定し、人口減少への対策や今後のまちづくりを進めていくものとしています。
- ⑤ 第2次国土利用計画さくら市計画：平成29年3月
 - ・ 市土の有効利用を図り、さくら市の特性と調和のとれた土地利用を引き継いでいくため、「農用地」「森林」「水面・河川・水路」「道路」「宅地」「その他」の利用区分ごとの土地利用の基本方向が示されています。
- ⑥ 第3次さくら市土地利用調整基本計画：平成29年3月
 - ・ 人口減少抑制のための開発の誘導として、用途地域への開発の誘導、既存住宅地への誘導、企業誘致による開発の誘導、新たな開発の受け皿の検討を基本方針に進めるものとしています。また、優良農地の保全等による農業の振興、希少性の高い自然環境の維持及び保全についても基本方針として定めています。
- ⑦ 桜の郷づくり計画：平成18年3月
 - ・ 郷土に誇りが持てる桜の郷づくりを基本方針に、既存の桜資源や新たな桜資源のネットワーク化、さくら市全体の桜のグレードアップ化を図るものとしています。
- ⑧ さくら市地域公共交通網形成計画：令和2年3月
 - ・ さくら市が目指すコンパクトシティの実現に向けて、まちづくりと連携し、地域全体を見回した面的な公共交通ネットワークを再構築するための基本方針を定めています。

(2) 広域におけるさくら市の位置づけ

- ・人口や産業構造の指標に基づき、広域的な視点からさくら市の位置づけを整理します。

①人口

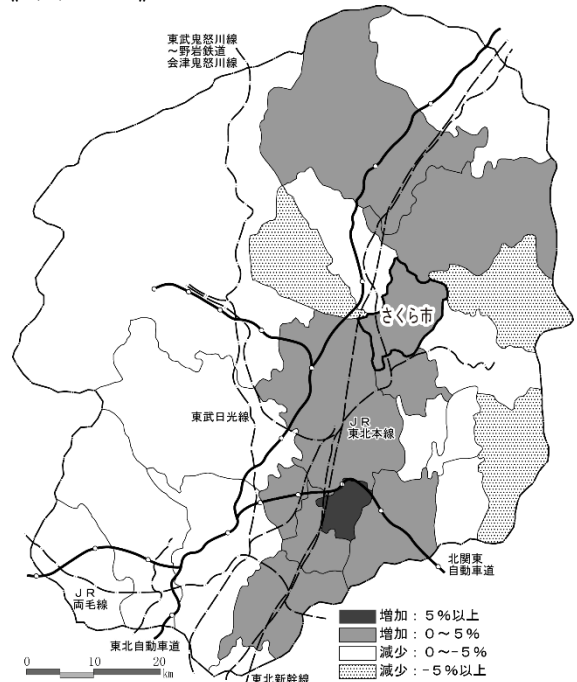
- ・人口の増加傾向：J R 東北本線（宇都宮線）・東北自動車道・国道4号など、さくら市を含む北東国土軸に関わる幹線軸沿線の都市群
- ・人口の減少傾向：県西及び県東の都市（特に茨城県境）、佐野市・足利市・栃木市など

②産業構造

【人口一人当たりの農業産出額・工業製品出荷額等・年間商品販売額の合計に対する各比率で都市の産業力を把握】

- ・宇都宮市：商業主導型
- ・さくら市：農業・工業型

《 人口 》



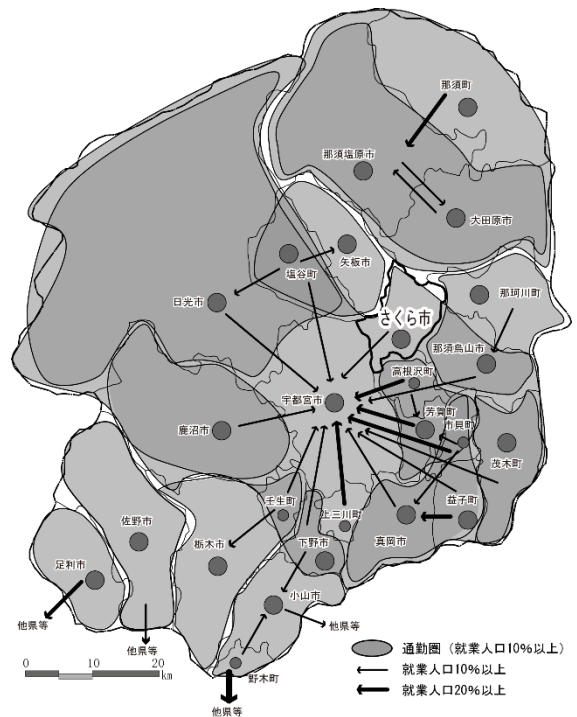
資料：H22・H27 国勢調査

③通勤圏

【他都市の総就業者の10%以上を受け入れる都市を中心として通勤圏を整理】

- ・県内に13の通勤圏
- ・北部：那須塩原市・大田原市による相互依存の通勤圏
- ・中央部：宇都宮市の有する広域な通勤圏
- ・南部：小山市・栃木市・佐野市・足利市がそれぞれの通勤圏
- ・さくら市：本市就業者数の約20%が宇都宮市へ通勤し最多、次いで、矢板市、芳賀町、高根沢町、那須烏山市の順に通勤率が高い

《 通勤圏 》



資料：H27 国勢調査

④商 圏

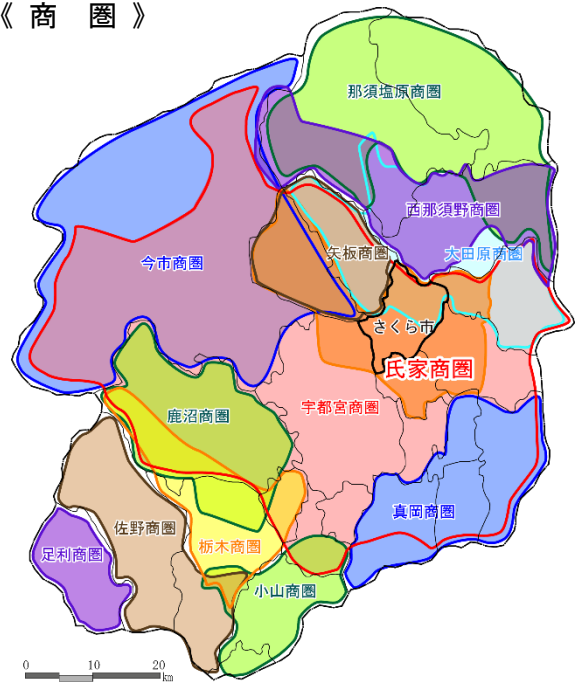
【商業購買層の流出入から商圈（吸収率10%以上）を整理】

- ・県内を対象に13の商圈
- ・宇都宮市：広域な商圈と高い集客性
- ・さくら市：氏家商圈として、吸収率10%以上はさくら市のほか、旧上河内町、塩谷町、高根沢町、旧南那須町、旧小川町を含む

○宇都宮影響圏について

- ・県都宇都宮市：広域的な交通環境、特出した商業環境、有数の工業団地などを有し就業の場として求心力は非常に強い
- ・影響圏：東西県際を含む広がり、副次的都市として、矢板市・那須烏山市・真岡市・鹿沼市・日光市が含まれる

《 商 圏 》



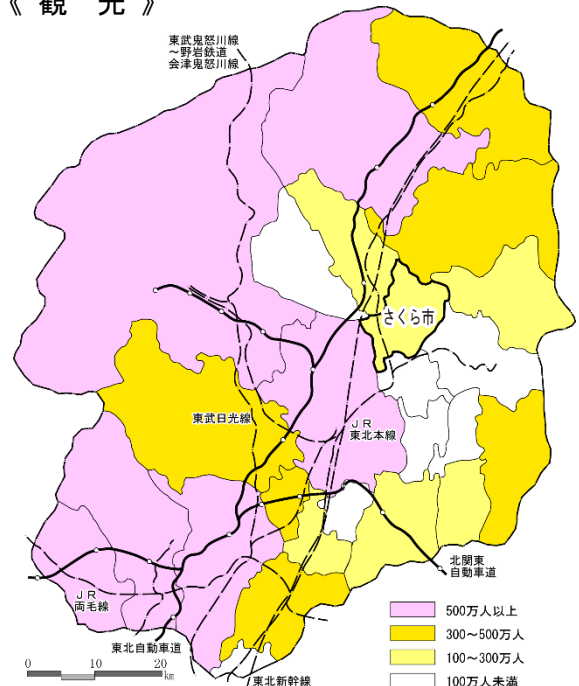
資料：H26 地域購買動向調査報告書

⑤観 光

【観光客入込数の推移により観光地としての特性を把握】

- ・年間500万人以上の来訪：日光市・那須塩原市・宇都宮市・佐野市・足利市・栃木市
- ・年間300万人以上の来訪：鹿沼市・小山市・大田原市・茂木町・壬生町・那須町
- ・年間1,000万人以上の来訪がある宇都宮市に近接する東側地域（高根沢町・芳賀町・市貝町・那須烏山市）は相対的に誘客性が弱い

《 観 光 》



資料：H30 栃木県観光客入込数・宿泊数推計調査

■広域におけるさくら市の位置づけ

- ・宇都宮影響圏内（宇都宮市街地までJRで15分、車で約30分の距離）に包含
- ・就業や生活の面において宇都宮市に依存する傾向大～宇都宮市のベッドタウンとして機能
- ・宇都宮市の求心力増大や本市の商業環境の充実などから矢板市とのつながりは希薄化

(3) さくら市の現況

- ・ さくら市の人口・産業・土地利用・都市基盤などの現状を整理します。

①位置

- ・ さくら市は関東平野の北端、栃木県中央部のやや北東に位置し、東京から直線距離で約 120km 圏内で、隣接する県都宇都宮市からは約 20km の距離にあります。
- ・ 首都圏と東北地方とを結ぶ東北自動車道、国道 4 号、J R 東北新幹線、J R 東北本線（宇都宮線）等の主要な国土連携軸上にあり、都心へは新幹線利用で約 70 分、高速道路利用で約 120 分のアクセスが可能です。
- ・ また、温泉をはじめ、丘陵や清流等の豊かな自然、城下町や宿場町としての歴史、ゴルフ場等の豊富な観光資源を有し、首都圏からの身近な観光地として位置しています。

《 さくら市の位置 》



②人口のうごき

[総人口の推移]

- ・ さくら市の総人口は 44,018 人となっており、過去 10 年間については増加傾向にありましたが、近年は横ばいになっています。(平成 20 年:42,839 人⇨令和 2 年:44,018 人)

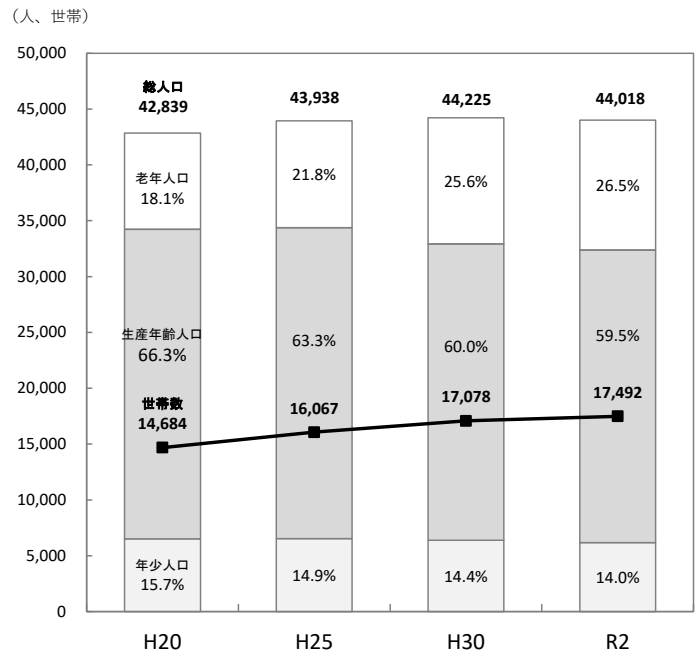
[世帯数の推移]

- ・ さくら市の世帯数は 17,492 世帯となっており、過去の推移をみても増加傾向にあります。(平成 20 年:14,684 世帯⇨令和 2 年:17,492 世帯)

[年齢別人口の推移]

- ・ 年少人口（0～14 歳）の割合は 14.0%でやや減少、老年人口（65 歳以上）の割合は 26.5%で増加の傾向にあり、少子高齢化の動きが進行しています。(住民基本台帳より)

《 総人口の推移 》



資料：住民基本台帳

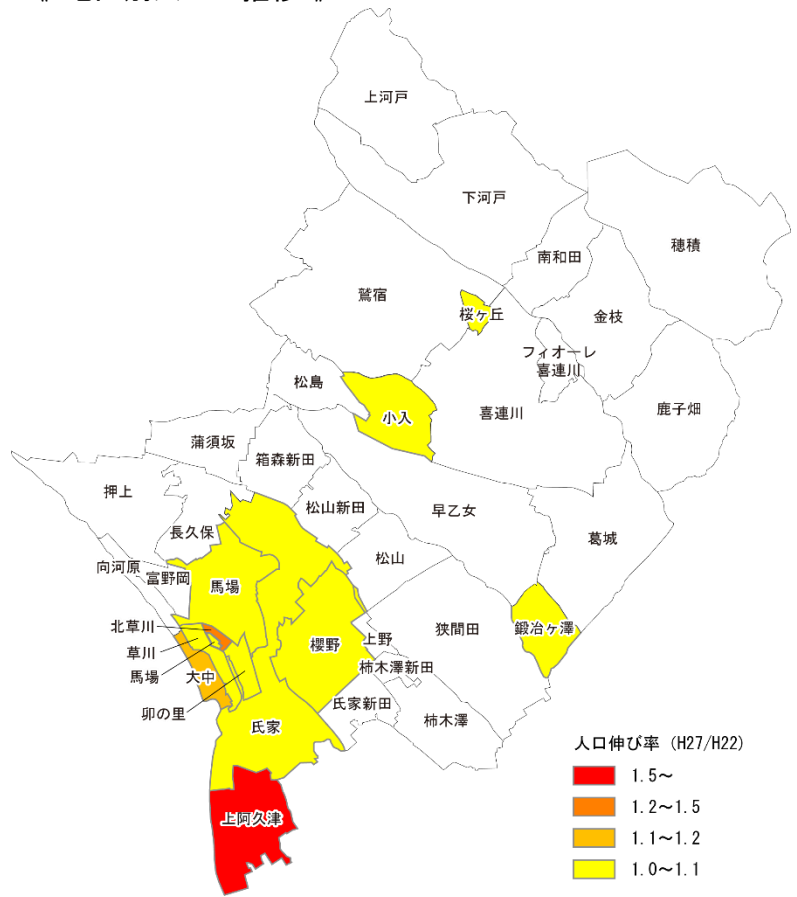
[大字別人口の推移]

- ・氏家地区については全体的に増加傾向にあり、宅地分譲に伴う影響から、上阿久津台地土地区画整理区域周辺において人口の伸び率が高くなっています。
- ・喜連川地区については全体的に減少傾向にあるものの、用途地域外における人口増の傾向が見受けられます。

[就業人口の推移]

- ・産業別の割合を見ると、第1次産業の減少と第3次産業の増加が顕著となっています。

《 地区別人口の推移 》



資料：H22・H27 都市計画基礎調査

③産業動向

[農業]

- ・土地利用型農業（稲・麦類・豆類等）が主体であり、畜産業等も含め、東京圏への生鮮食料の供給基地としての役割を果たしています。

[林業]

- ・喜連川地区を中心に展開される林業経営については、木材不況等の影響から採算性は悪化しています。

[水産業]

- ・豊富な地下水を利用した鮎の養殖が主体です。

[工業]

- ・東北自動車道矢板ICに近接する喜連川工業団地、蒲須坂工業団地、河戸地区を中心に、自動車・機械・紙製品・金属製品・プラスチック加工・食品等の企業が立地しています。

[商業]

- ・商店街における小売店舗数は減少傾向にあり、空き店舗が目立つなど相対的に活力が低下しているものの、売場面積3,000㎡以上の大規模小売店舗の郊外進出が進み、総売場面積は増加の傾向にあります。

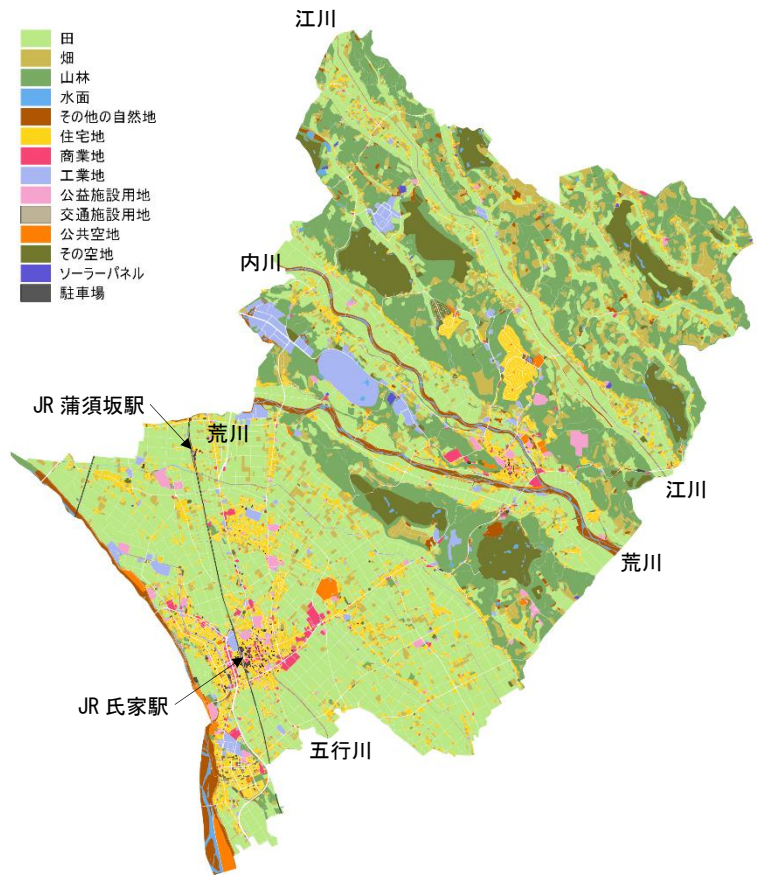
[観光]

- ・氏家地区ではさくら市ミュージアムや瀧澤家住宅、さくらテラス等を中心に、喜連川地区では温泉資源を活用した観光事業を中心に、それぞれ特色ある観光活動が進められています。近年、停滞していた年間観光客入込数及び観光客宿泊数はともに増加傾向にあります。

④土地利用特性

- ・地形的な特徴は大きく2つに区分され、氏家地区（市西部）が鬼怒川沿いのほぼ平坦地であるのに対し、喜連川地区（市東部）は数条の丘陵地の間に水田が配される起伏に富んだ地形となっています。
- ・市域西部において、市街地や農地を中心とした平坦な地形が広がり、市域中央部から東部にかけて、丘陵地と農地が帯状に入り組み、大規模住宅地・工業団地・ゴルフ場などが点在しています。
- ・住宅用地・商業用地・工業用地等の宅地利用の割合が約1割であるのに対し、田・畑・山林の自然的土地利用は6割以上と高く、自然豊かな都市環境を有しています。

《 土地利用現況 》



参考：H28 都市計画基礎調査

⑤法規制（都市計画区域・用途地域）

[都市計画区域]

- ・市全域がさくら都市計画区域に指定されています。

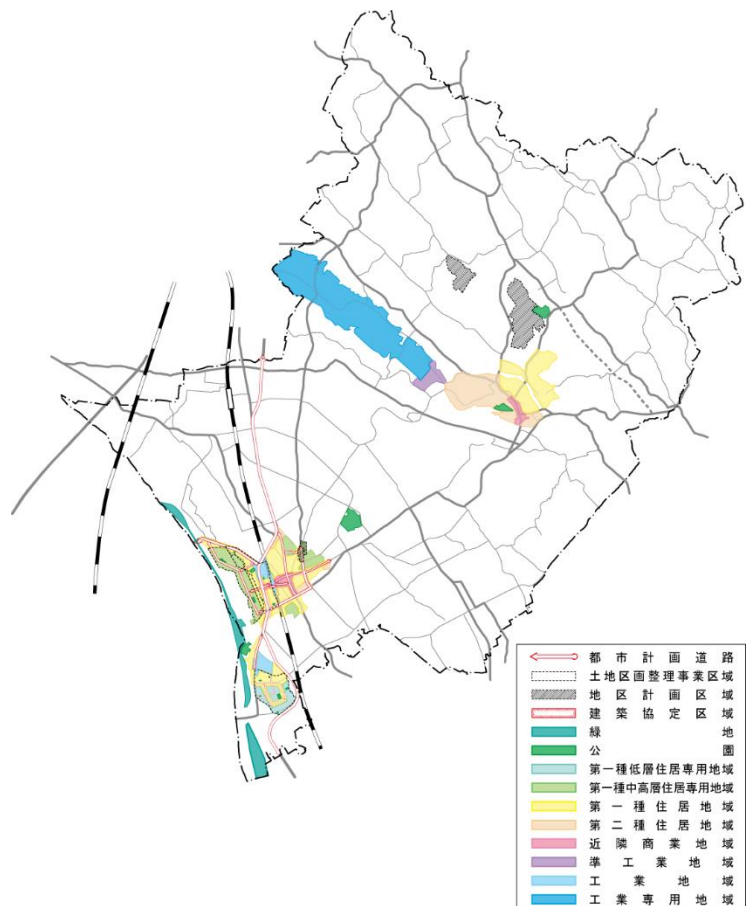
[用途地域：氏家地区]

- ・氏家市街地及び上阿久津台地地区において、主に住居系用途地域が指定されています。

[用途地域：喜連川地区]

- ・喜連川市街地から西側へ帯状に用途地域が指定されています。
- ・東部には住居系用途地域が、西部には工業専用地域が指定されています。

《 用途地域指定状況 》



資料：さくら市都市計画図

⑥面的整備の動向

- ・ さくら市における土地区画整理事業は、氏家市街地西側の2地区、氏家市街地東側の1地区、上阿久津台地の1地区（さくら市施行：整備中）において施行されています。
- ・ 喜連川地区においては、土地区画整理事業による面的整備は実施されていないものの、市街地北側に近接して、民間開発による温泉付き住宅団地（フィオーレ喜連川・桜ヶ丘）が整備されています。

⑦道路交通特性

[国県道]

- ・ 市域西部を南北に縦断する国道4号と、市域南部を東西に横断する国道293号を主軸として、道路網の骨格が形成されています。
- ・ 主要地方道の大田原氏家線・今市氏家線・塩谷喜連川線・那須烏山矢板線や、一般県道の氏家宇都宮線などが主軸路線を補完し、市内における道路ネットワークを形成しています。

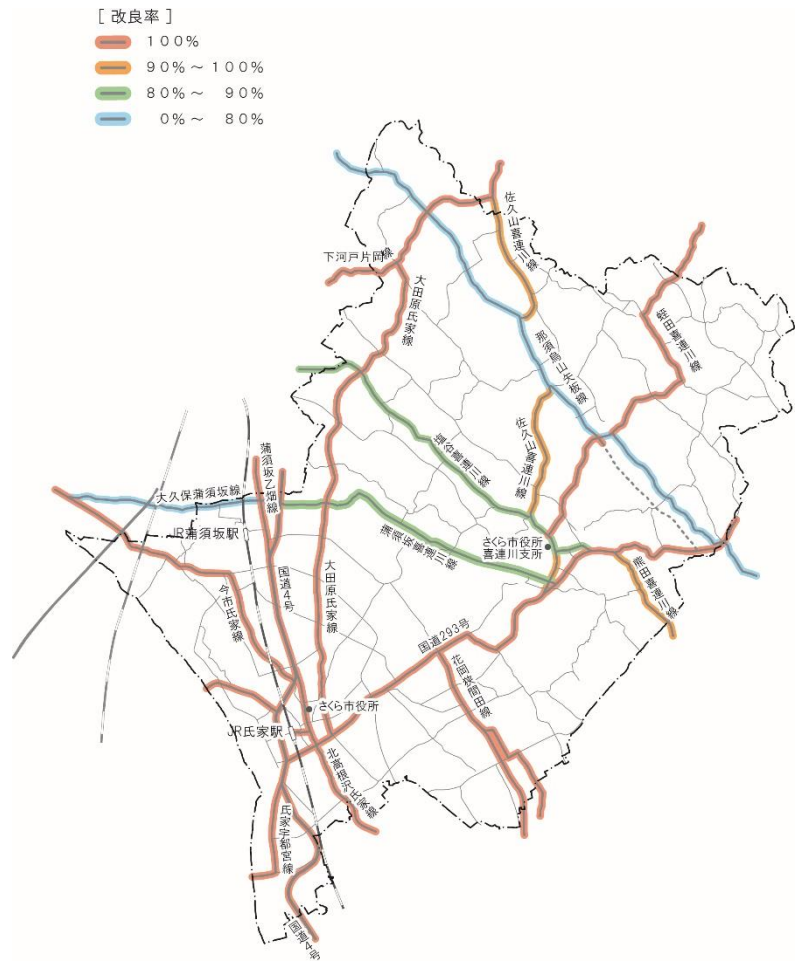
[市道]

- ・ 広域農道グリーンライン及びさくらロードをはじめ、市内各地区を連絡する道路が整備されていますが、全体的に幅員狭小路線が多く、安全性や利便性の面から整備が必要です。

[都市計画道路]

- ・ 氏家地区において15路線が計画決定（総延長24.98km）され、うち10路線が整備済、5路線が未着手となっています。

《 主要地方道・一般県道整備状況図 》



資料：H31.4 道路現況調書（栃木県 県土整備部）

⑧公共交通等

[鉄道]

- ・東京近郊方面と県北方面とを結ぶJR宇都宮線が運行し、「JR氏家駅」及び「JR蒲須坂駅」が設置されています。各駅の年間乗車人員の推移をみると、JR氏家駅では微増傾向、JR蒲須坂駅では横ばいの傾向にあります。

[バス]

- ・民間が運営する路線バスは3路線（馬頭線、宇都宮東武線、フィオーレ線）、宇都宮市と協調し運営する路線バスは1路線（上河内地域路線バス）が運行しています。

[デマンドタクシー]

- ・市が運営するデマンドタクシーは3種類（うのはな号：氏家地区限定、コンタ号：喜連川地区限定、つういんコンタ号：喜連川地区～黒須病院限定）が運行しており、高齢者等の生活交通を担う重要な移動手段となっています

[その他の交通]

- ・市が運営するその他の交通（観光温泉バス）は1路線が運行しています。

⑨その他都市施設（公園緑地、供給処理施設、河川、教育施設、公共公益施設）

[都市計画公園]

- ・氏家地区に14箇所（総合公園1箇所、近隣公園2箇所、街区公園11箇所）、喜連川地区に2箇所（地区公園）が整備されていますが、氏家地区においては、主に土地区画整理事業施行地区内に公園が配置されているため、JR宇都宮線以東の市街地においては整備量が不足しており、喜連川地区においても、街区公園や近隣公園等の日常的に利用される公園が整備不十分であります。

[都市計画緑地]

- ・鬼怒川河川敷の1号氏家緑地と2号鬼怒グリーンパークが位置づけられ、公園空間や県民ゴルフ場の一部として多くの利用客が訪れています。

[上水道]

- ・本市の上水道普及率については、栃木県平均の普及率に比べてやや低く、上水道未整備地区が7%ほど残っている状況にあります。

《 上水道整備状況 》

区分	行政区域総人口 (人)	計画給水人口 (人)	現在給水人口 (人)	普及率 (%)
栃木県全体	1,969,315	2,253,190	1,885,094	95.7
さくら市	44,118	48,280	41,047	93.0

資料：
H31 栃木の水道
(県公表資料)

[下水道]

- ・公共下水道整備の全体計画区域は995.1ha（氏家処理区668.3ha、喜連川処理区326.8ha）、うち供用開始区域が656.50ha（氏家処理516.27ha、喜連川処理区140.23ha）となっており、整備率の状況は、氏家処理区77.3%、喜連川処理区42.9%となっています。
- ・氏家市街地に隣接する上野地区においては、農業集落排水事業が実施済（整備率100%）となっています。

《 下水道整備状況 》

令和元年度	計画区域 (ha)			認可 区域 (ha)	供用区域 (ha)			整備率 (%)
	合計	用途 地域	用途 地域外		合計	用途 地域	用途 地域外	
氏家地区	668.3	397.0	271.3	621.1	516.27	-	-	77.3
喜連川地区	326.8	286.0	40.8	178.2	140.23	-	-	42.9
さくら市	995.1	683.0	312.1	799.3	656.50	-	-	66.0

[河川]

- ・氏家地区は利根川水系、喜連川地区は那珂川水系に含まれています。
- ・利根川水系の一級河川には、五行川・大沼川・冷子川の3河川が指定され、那珂川水系の一級河川には、荒川・菅の沢川・内川・江川・西江川・岩川の6河川が指定されており、荒川については、さくら都市計画河川に指定されています。
- ・市境を流れる鬼怒川の一部については、上阿久津の一部が宇都宮都市計画河川に指定されています。

[教育施設]

- ・小学校については、氏家地区に5校、喜連川地区に1校、中学校については、氏家地区・喜連川地区ともに1校、高校については、氏家地区に1校（さくら清修高等学校）が設置されています。

[公共公益施設]

- ・主要な公共公益施設については、さくら市役所本庁舎及び喜連川庁舎を中心に集積し、氏家・喜連川それぞれの市街地において効率よく利用できる状況にあります。
- ・氏家地区においては、コミュニティ施設として氏家公民館、氏家体育館、氏家図書館、福祉施設として氏家保健センター、氏家福祉センター、喜連川地区においては、コミュニティ施設として喜連川公民館、喜連川体育館、喜連川図書館、福祉施設として喜連川保健センター、喜連川社会福祉センターなどが、それぞれ整備されています。

2 我が国の動向

- ・私たちの暮らしに大きな影響を与える我が国の動向は以下のとおり整理されます。

(1) 人口減少社会・超高齢化社会の到来

- ・日本の総人口は 2008 年をピーク減少し、人口減少社会に突入
- ・高齢化の急速な進行：出生率の低下に伴う少子化と団塊世代の高齢化、生産年齢人口の減少と高齢人口の増加

(2) 社会・経済活動の変化

- ・持続可能な地域づくりへの期待：地域の資源を活かした産業の活性化、地域間交流の推進、拡散型都市構造の是正、既存ストックの状況に合わせた都市構造への転換
- ・国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）への貢献
- ・“生産性革命・人づくり革命”の推進：少子高齢化の壁を乗り越えるために「一億総活躍社会」の実現を目指す
- ・国内の地域間競争の激化：東京一極集中の是正、地方への移住定住の促進等、地方創生に向けた全国的な取組の推進
- ・地域観光資源の開拓：モノ～コト消費の需要増への対応、インバウンド需要の取り込み
- ・働き方改革の浸透：ワークライフバランス、仕事と子育ての両立などを重視した価値観の醸成、日本企業の労働環境の変化および法制度改革の実現

(3) 情報通信技術の進展

- ・ビッグデータの普及、ICTの進歩に伴う情報量の増大とコミュニケーションの変化
- ・IoTおよびAIの進歩、まちづくりと公共交通・ICT活用等の連携によるスマートシティ構想の実現に向けた取組（自動運転技術の実用化、Maasによる生活利便の向上、他）など、超スマート社会（Society5.0）の実現を目指した動きの加速化

(4) 社会の成熟化に伴う価値観やライフスタイルの変化

- ・物質的な豊かさよりも心の豊かさを重視
- ・自由に活動できる時間の増加に伴う多様なライフスタイルの選択が実現
- ・地域コミュニティの希薄化に対応するため、多様な主体による共生社会づくりが今後の課題
- ・健康意識の高まり

(5) 環境問題の深刻化

- ・地球温暖化：頻発化・激甚化する自然災害の発生
- ・大量消費・大量廃棄により増大するごみ処理や不法投棄等の問題
- ・環境への国民の関心の高まり：温室効果ガスの排出削減、資源循環型社会や自然との共生社会実現に向けた取組みの必要性
- ・クリーンエネルギー対策、省資源・省エネルギー型ライフスタイルへの転換

(6) 安全・安心への希求の高まり

- ・大雨の増加などに伴う災害の増加や被害の甚大化、大規模地震の発生等の懸念
- ・食の安全・安心の確保に向けた取組みの必要性
- ・国土強靱化の推進：南海トラフ、首都圏直下型地震等の大規模地震・津波災害、近年頻発する風水害・土砂災害、火山災害や大規模事故等の発生に対する国民の意識の高まり
- ・高齢者による交通事故の増加、運転免許証の返納の進展：移動手手段の確保が課題

(7) 地域社会・コミュニティの変化

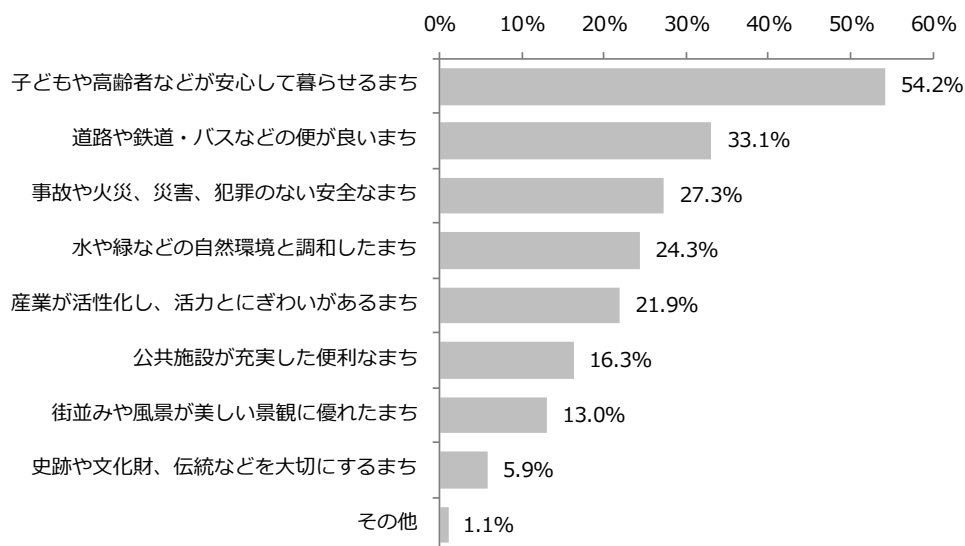
- ・ 荒廃農地、空き家、空き地問題（所有者の所在の把握が難しい土地問題）の顕在化
- ・ 国土の利用効率の低下：都市のスポンジ化、都市の肥大化に伴う市街地内の低未利用地の増加、地域コミュニティの希薄化

3 市民意向調査からみたまちづくり

- ・地域の実情に合った効果的なまちづくりが展開されるよう、「都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査」を実施しました。市民が考え、期待するまちづくりは以下のとおり整理されます。

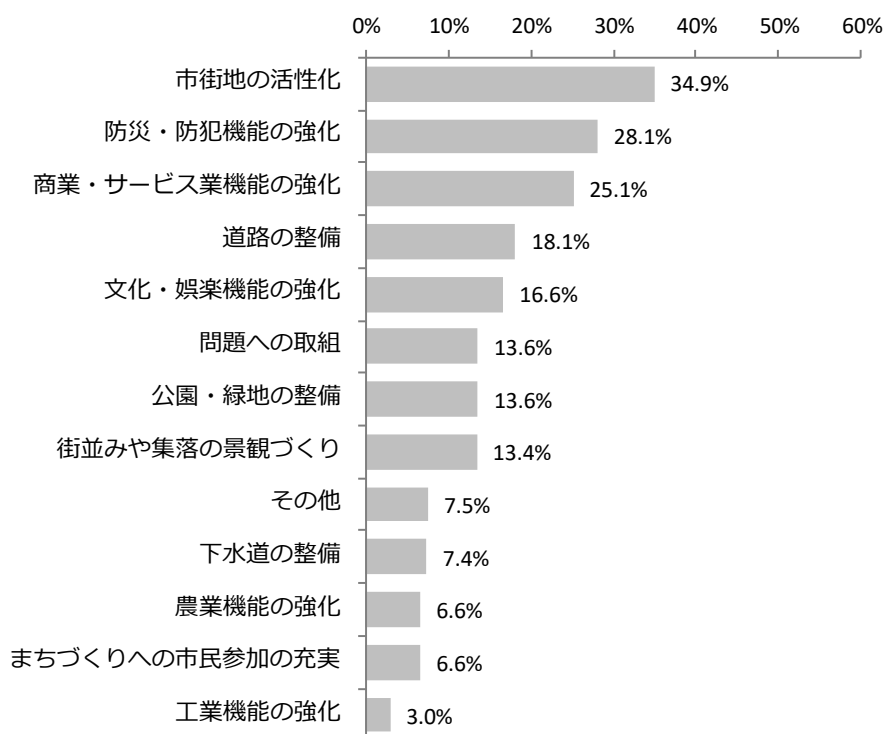
(1) さくら市の10~20年後の望ましいまちの姿

- ・子どもから高齢者まで誰もが安全・安心に暮らし、水や緑などの自然環境と調和した地域のまちづくりが望まれています。



(2) これからのまちづくりにおいて特に力を入れて欲しいこと

- ・“市街地の賑わいづくり”や“商業サービス機能の強化”に向けた取り組み、防災・防犯の強化と道路の整備などによる“安全・安心なまちづくり”に関する取り組みが期待されています。



(3) 地域の環境やまちづくりに対する満足度

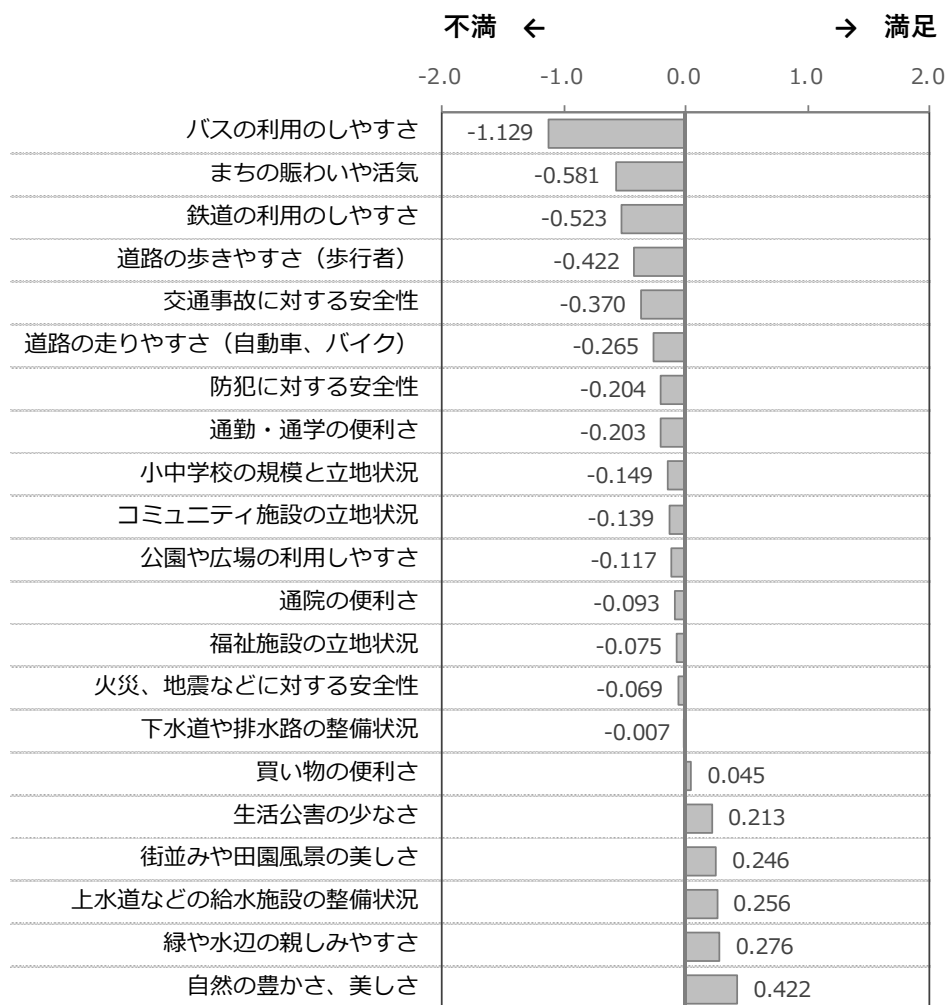
- ・地域の環境やまちづくりに対する満足度は、全体的にやや低いもの（平均：-0.172）となっています。

【満足度の高いもの】

- ・“自然の豊かさ”“緑や水辺の親しみやすさ”“街並みや田園風景の美しさ”といった、恵まれた自然環境に対する評価が高くなっています。

【満足度の低いもの】

- ・“バスの利用のしやすさ”に対する評価が最も低く、次いで“まちの賑わいや活気”“鉄道の利用しやすさ”に対する評価が低くなっています。
- ・“道路の歩きやすさ（歩行者）”“交通事故に対する安全性”“防犯に対する安全性”といった、安全面に対する評価が低くなっています。



※地域の環境やまちづくりに対する満足度を得点化（満足：2点、ほぼ満足：1点、ふつう：0点、やや不満：-1点、不満：-2点）したもの。（満足の件数×2点+ほぼ満足の件数×1点+普通の件数×0点+やや不満の件数×-1点+不満の件数×-2点）÷（全体の件数-無回答の件数）として算出

4 さくら市のまちづくり課題

- ・さくら市の特徴や我が国の動向、市民意向などを踏まえ、取り組むべきまちづくりの課題を以下のとおり設定します。

(1) 新たな地域連携の要となる都市力の強化（雇用と定住）

- ①北東国土軸上に位置する立地優位性を活かしたまちづくり
 - ・高速交通網に近接する優位性を活かした産業立地機能の向上
 - ・県都宇都宮市との近接性を活かした定住機能の一層の強化
- ②定住の場から定住・就業の場への転換
 - ・これからの定住人口を計画的に受け入れるための都市基盤づくり
 - ・地元就業者の増加をうながす就業の場の確保
 - ・既存工業団地等における生産環境の維持・充実
 - ・大規模企業及び関連企業などの立地に向けた良好な操業環境づくり

(2) 持続可能で暮らしやすい都市環境の形成（都市基盤整備）

- ①コンパクトな都市構造への転換による都市経営の効率化
 - ・拡散型の都市構造から街なかへの居住（集住）の誘導と都市機能の集積促進
 - ・公共交通による拠点間の連携強化と移動の円滑化
 - ・市街地内における低未利用地（空き家・空地等）の有効活用
 - ・日常の買い物利便を高める都市機能施設の計画的な誘導
 - ・徒歩や自転車による移動性の向上、歩いて暮らせる環境づくり
- ②地域間の交流や連携の促進
 - ・地域の人口推移を見据えた地域活力に結びつく交流施策の展開
 - ・フィオーレ喜連川や桜ヶ丘（びゅうフォレスト喜連川）などの特色を活かした都市住民の受け入れ
- ③広域的な交流や連携を支える骨格的な交通網の形成（交通）
 - ・広域連携を支える東北自動車道矢板 I C 及び上河内 S I C へのアクセス環境の向上
 - ・国道 293 号、主要地方道及び一般県道の整備促進
 - ・J R 宇都宮線の利用増進を促す氏家駅、蒲須坂駅の利用環境の向上
 - ・高齢者等の移動手段となる公共交通の維持とサービスの向上
 - ・道路整備基本計画や土地利用計画等との整合の図られた効果的な都市内交通網の向上

(3) 地域資源を活かした魅力とにぎわいの環境づくり（中心市街地）

- ①既存ストックを活かした中心市街地の活性化
 - ・さくら市の玄関口となる「J R 氏家駅」のある氏家中心市街地における既存商業地の再生、活性化施策の展開
 - ・喜連川市街地における温泉や歴史を楽しむ観光対応に配慮した商業地の形成
 - ・街なか居住機能を充実するための都市基盤施設の整備、主要な公共施設及び公共交通機関の利用環境の向上
 - ・特色ある都市内観光の活性化や広域的な観光連携の強化

(4) 地域の特性に応じた快適な生活環境の形成（地域特性、生活環境、安全安心、情報）**①道路・公園・下水道等の基盤施設整備の充実・向上**

- ・市街地や集落地における地域ごとの特性を踏まえた計画的な都市基盤施設の整備、居住環境の向上

②生活の利便や質を高める公共公益施設等の利用環境の向上

- ・安全安心な暮らしのための保健・医療・福祉の機能強化等による環境の充実
- ・より多くの人々が利用しやすい公共公益施設のバリアフリー改修等の検討
- ・学校施設の統合・再編の推進、安全・安心な教育環境や通学環境の確保

③災害に強い安全な都市環境の形成

- ・避難経路や避難場所の確保、既存施設の耐震性強化など、防災および減災対策の一層の推進

④多様化するニーズを踏まえた情報通信環境の充実

- ・より多くの人々が容易に利用できる情報通信基盤の整備

(5) 美しい自然環境や街並みの次世代への継承（水緑、景観、桜、歴史・文化）**①水と緑を活かしたうるおいのある環境づくり**

- ・地域に愛される広々とした田園や森林を守るための保全・活用策の検討
- ・鬼怒川・五行川・荒川・内川・江川等における河川環境の保全・活用

②良好な農業地帯を支える環境の維持

- ・良好な自然環境であり生産基盤である農地の保全・活用策の検討

③環境にやさしいエコなまちづくり

- ・ごみの減量化やリサイクルの促進
- ・地球温暖化問題における温室効果ガス削減への取組み促進
- ・環境負荷の少ない低炭素な都市づくりの推進

④地域や暮らしの特性を踏まえた景観の形成

- ・市街地-集落-丘陵などの特色に配慮した街並みや山並みの景観づくり
- ・氏家ゆうゆうパーク、勝山公園、桜並木、喜連川丘陵、日光・那須連山の眺望、広々とした田園風景など、美しい景観資源の維持・充実

⑤地域に対する誇りやふるさと意識を醸成する桜資源や歴史・文化資源の保全・活用

- ・喜連川の桜並木や鬼怒川の桜堤などの保全・育成
- ・桜資源の連携づくりやグレードアップ化
- ・豊かな歴史的・文化的環境の維持・継承と地域活性化への活用の検討

(6) 多様な主体が一体となったまちづくり基盤の確立（協働）**①地域の知恵と工夫によるまちづくりの仕組みづくり**

- ・行政、市民、地縁型のコミュニティ、ボランティア、非営利組織（NPO）、大学、企業などの多様な主体と連携した協働によるまちづくりの推進
- ・それぞれの役割と責任の明確化、一体的な事業推進の仕組みづくりなど、主体的な都市づくりを進める人材育成の検討